

【演題名】

高齢者に対するロコトレ指導の効果要因に関する研究—訪問と電話指導による検証—

Effect factor of the locomotion training instruction to elderly people -Approach by the home-visit and the telephone-

ゆきよしクリニック 清水美穂

【目的】運動機能低下が危惧される高齢者に対して、自宅でロコトレ指導を行った後、3ヶ月間電話による実施状況の確認、指導を行った。ロコトレ実施前後での基本チェックリスト得点の変化から効果検証を行った。

【対象】A市在住の65歳以上で運動器の機能向上の二次予防事業対象者であり、市が実施する二次予防事業通所型介護予防事業への不参加者のうち、本研究への参加同意を得られた136名（男性38名、女性98名）を対象とした。平均年齢は76.9±6.2歳であった。

【方法】本調査は平成24年4月1日から平成25年12月25日まで実施した。方法は自宅へ理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が訪問し、実施前評価として基本チェックリストを用いて評価しロコトレ指導を行った。ロコトレは開眼片脚立ちとスクワットの2つを指導し、実施状況をロコトレ手帳に毎日記録してもらった。3ヶ月間は週3回を目安として電話によるロコトレ実施状況の確認、必要に応じて指導を実施した。3ヶ月後に再度自宅へ訪問し評価した。基本チェックリストの25項目を「社会参加」「運動機能」「嚥下機能」「認知機能」「抑うつ」の5要因に分類し、ロコトレ実施前後の得点を比較検討した。統計処理は正規性の検定後、Wilcoxon符号付順位和検定を行い、有意水準は5%未満とした。研究仮説として、ロコトレ指導により「社会参加」「運動機能」の2要因が向上すると示唆する。

【結果】基本チェックリストの「社会参加」「運動機能」「嚥下機能」「認知機能」「抑うつ」の5要因のうち、「運動機能」のみ有意差 ($p<0.05$) がみられた。

【考察】運動機能低下が危惧される高齢者に対して、ロコトレ指導を3ヶ月間実施した結果、「運動機能」の1要因に関して向上がみられた。「社会参加」と「運動機能」の向上を仮説として検証したが、「社会参加」の向上は支持しない結果となった。

【共同演者】

新潟大学大学院医歯学総合研究科機能再建医学講座：青木可奈

新潟医療福祉大学医療技術学部理学療法学科：佐久間真由美

新潟大学大学院医歯学総合研究科機能再建医学講座：遠藤直人

ゆきよしクリニック：荻荘則幸